

TOWN TOPICS

まちの話題

●身近で楽しい話題、
明るい話題待っています。

広報こまつしま 電話 32-3812



深紅の実をつけたやまもも。
昭和63年から市の木として親しまれています。
(写真は6月21日八千代橋付近にて撮影)



水生生物を捕獲している子どもら（手前）

5/21

生命が宿る清流 田浦用水で生き物調査

毎年この時期に開催される田浦町西原地区「ホタルまつり」の準備のため、5月21日、用水を堰き止めて水車を設置しました。その際に、西原活性化協議会と小松島市生物多様性農業推進協議会が子どもたちに地域の自然に親しんでもらうことを目的に、水路の生き物調査を実施。

集まった子どもたちは、NPO法人とくしま有機農業サポーターセンター職員の中村隆弘さんと一緒に流れが止まった田浦用水に入り、網を片手に小魚やエ

ビなどを捕獲。中村さんから捕獲した水生生物の説明を受け、子どもたちは調査を通じ自然環境の大切さなどを学びました。

翌週には4基の水車が設置された「ホタルまつり」が開催され、訪れた家族連れらはホタルと水車の競演や、生き物調査で捕獲した水生生物の展示などを楽しんでいました。



市民の憩いの場で働く 知的障がい児者たち

小松島みなと交流センターkocoloの1階にある喫茶コーナーで、今年4月から市内の知的障がい児者が就労訓練を行っています。

同喫茶コーナーで働くのは、社会福祉法人小松島市手をつなぐ育成会みやま園に通う障がい児者で、平日の午前10時から午後2時過ぎまで接客や食器の後片付けに励んでいます。

この就労訓練は、特定非営利活動法人港まちづくりファンタ

ジーハーバーこまつしまと小松島市手をつなぐ親の会、前述のみやま園の三者が、小松島における障がい児者の福祉向上と就労支援および小松島市の活性化を図ることを目的に業務提携し実現したものです。

同喫茶コーナーでは、コーヒーや地元で捕れた鱧でつくったカツと水菜をはさんだ小松島バーガーなどを楽しむことができ、近所の方や常連客で賑わっていました。



接客の訓練をしている様子

6/12

阿波の伝統芸能 人形浄瑠璃を公演



駒三座による人形浄瑠璃を公演

たつえ歴史教室の開校5周年を記念して6月12日、ふれあいセンター立江で駒三座による人形浄瑠璃『傾城阿波の鳴門』の公演が開催され、約50名の観客が来場。

公演では「順礼歌の段」と「十郎兵衛住家の段」が演じられ、息の合った3人の人形遣い、情感あふれる太夫の語りと太夫を引き立てる三味線の音色が、観客を魅了していました。